

## 対タジキスタン草の根・人間の安全保障無償資金協力

### イスファラ行政郡チョルク地区ホレソン村第65中等学校校舎増築計画

イスファラ行政郡は首都ドゥシャンベ市から北東約450キロの距離にあり、フェルガナ盆地に位置するソグド州の街です。同行政郡はキルギスタン共和国及びウズベキスタン共和国と国境を接しているため、多くのキルギス系タジク人とウズベク系タジク人も住んでいます。

当計画の支援対象となった第65中等学校は、イスファラ行政郡中心地から南に15キロ程離れたチョルク地区ホレソン村に位置しています。2004年に地元住民により建設された校舎の定員は200名でしたが、調査時（2012年）には生徒数が400名を越えていたため、老朽化により使用されなくなった近所の公民館を臨時校舎として使用していました。また、ホレソン村に住む9年生以上の生徒は、3、4キロ離れた他村の中等学校まで通学しなければならず、進級をあきらめる生徒も多く、その多くは女子生徒たちでした。

本計画では、都市部から遠隔地にある地域においても、より多くの生徒が平等で適切な基礎教育が受けられる環境をつくるため、同学校にて別校舎の建設を支援しました。また、タジキスタン教育省の負担により、机・椅子等も整備されました。現在は、臨時校舎で勉強していた生徒は新校舎へと移り、隣の村まで通学していた9年生と10年生も同学校で授業が受けられるようになりました。



引き渡し式でテープカットを行う本使（写真中央）とラフモナリ行政郡長（中央右）。



日本の支援に対し感謝の意を述べるラフモナリ行政郡長。



安全で清潔な学習環境が実現しました。



計画実施前の臨時教室の様子です。



タジキスタン教育省により机・椅子・棚等の教育備品も整備されました。



新校舎の前で並ぶ生徒達と本使。